区分・種別	重要文化財(石造物)		
名　　称	ほうきょういんとう 宝篋印塔　１基		
所　在　地	今治市野間		
所　有　者	野間部落	管 理　団 体	
指定年月日	昭和29年3月20日		
解　　説	通称長円寺と呼ばれる廃寺跡、今は畑の中だが、１基の宝篋印塔がある。２段の基壇をもち、総高360cm、基壇を含めると４mにも及ぶ花崗岩製の大きな石塔で、均整がよく豪壮雄大である。 基礎４面には鎌倉様式の格狭間（こうざま）を彫り、その上部には２段の造り出しがみられ、受座は蓮弁をかたどっている。塔身は３面が無地で、背面に大きく次の銘文が刻まれている。「南無到来尊師　弥勒佛　正中二乙丑五月日　願主比丘尼口阿　当寺本願長円口也」（注　正中２年は1325年） 笠の四隅にある突起、相輪の宝珠、蓮弁ともに整い鎌倉時代の代表的な作品である。本塔は末法思想に関連のある弥勒信仰のために造られた点が興味深い。		